

# 守れ！子供と女性①

## 大阪のひったくり激減に感無量 次は強制わいせつ撲滅に重点を。

警察官僚から弁護士に転身して6年。大阪府警生活安全部長時代にひったくりなどの街頭犯罪対策にあたってきたほか、ライフワークとして児童虐待問題などに取り組んできた後藤啓二さん(52)は、昨年末に「法律家が書いた子どもを虐待から守る本」(中央経済社)を出版した。被害者の子供たちの存在に胸を痛め、法改正などの対策を訴えてきた。行動を支えるのは「子供を守りたい」という一途な思いだった。

(聞き手 池田祥子)

——昨年の大阪のひったくり認知件数が、再びワイストワンになってしまいました。それでも1761件と大きく減らしています。約10年前の府警生安部長時代にひったくりを含む街頭

## 弁護士 後藤啓二さん

犯罪対策に取り組んできたね

後藤 当時に比べたら隔世の感があります。私が生安部長に着任したころは、ひったくりが1万9733件(平成12年)、街頭犯罪は20万4831件(同13年)と、いずれも過去最悪の状況でした。私自身もひったくりが1万件を超えていてびっくりしました。正直に言うと、どれだけ治安が悪いんだろうと思っていました。

——年間1万件超ということば、1日平均30件ひったくりが発生していたということですね

後藤 忘れられない出来事があります。当時、警察別のひったくり件数のランキングで、1位は当然大阪府警ですが、警視庁、神奈川県警など大都市の警察が続いていて、少ない地方は数件でした。その中のワイスト20くらいに、布施署(東大阪市)や平野署(大阪市)、八尾署(八尾市)などがランク入りしていたんです。

都道府県警単位の認知件数に府内の警察署の件数が匹敵していたのは衝撃的でした。

——ひったくりの認知件数は年々減っています。後藤 23年の認知件数は、

## 新 関西笑談

ピーク時の6分の1にまで減っているんです。当時と比べたら信じられない数字ですよ。ただ何もせずに減ったわけではない。府警や府が一丸となって対策に取り組んできたことが10年たって実を結んできたんです。当時を知っている私にとっても非常にうれしいことです。

——ただ、大阪府は強制わいせつの認知件数も全国



最多で、府警の坂口正芳本部長は、強制わいせつへの対応を今年の重点課題のひとつにあげました

後藤 女性や子供に対する犯罪対策はとても重要なことです。大阪が全国に先駆けて提案する予定で、18歳未満の子供に対する性犯罪前歴者に居住地の届け出を義務化する条例案についても賛成です。刑期を終えた人に対する不当な人権侵害という見方もあるでしょうが、全くいわれのない人への規制ではない。一番守るべき利益は、子供らを守ることです。

——橋下徹・大阪市長は知事時代に条例案作りを指示しました

後藤 橋下氏には、知事時代に子供虐待防止の条例も作ってほしかった。私たちが求める子供の安全をめぐる法改正についても、政府が動かない中で、橋下氏のように社会に発信力がある人が条例を制定することなどで変わる可能性もある。実は橋下氏と私は、司法研修所が49期で同期なんです。同期は720人もいてクラスも違いましたが、研修所ですれ違っていたかもしれないですね。



大阪府警生安部長時代に街頭犯罪対策に取り組んだ後藤啓二さん。ひったくりの減少に「取り組みが実を結んだ」と話す

「ごとう・けいじ 昭和34年、神戸市生まれ。57年、東京大学法学部卒業後、警察庁入庁。平成4年に司法試験に合格。大阪府警生活安全部長、内閣参事官(安全保障・危機管理担当)などを

歴任して17年に退官。20年、神戸市に後藤コンプライアンス法律事務所を設立。企業法務の他、「児童ポルノを許さない社会をつくるための弁護士フォーラム」代表幹事などを務める。

# ゆとり

YUTORI